

佳作

「おやじの味」(いつもありがとう)

大阪府

大阪市立開平小学校 五年

岡田 賢心

みんな大人になったらおふくろの味を思い出すと
言いますが、ぼくが思い出すのはきつとおやじの味
でしょう。

ぼくの両親は二人とも仕事を持っていて、食
事を作るのはいつもお父さんです。ぼくのお父
さんは中国出身

で、中国では夫婦とも仕事を持っているので、
家に帰ってから体力のある男の人が食事を作る
のはめずらしくありません。お父さんも自分
のお父さんが料理をするのを見て自然に身に
つけたようです。

お父さんは、色々な料理を作れますが、ぼく
が一番好きな料理は餃子です。小麦粉をねっ
て皮から作ります。

ぼくは、四才の時から餃子作りを手伝って
います。

はじめは、皮を丸く作ることや、中のあん
がでないよ

うに中の部分を厚くするなどのことがむず
かしかった

けど、今はだいぶできるようになりました。
苦労して

作った餃子はすごくおいしいです。

お父さんが作った料理を食べて、ぼくはも
うお母さん

よりも背が高くなりました。

お父さん、いつもおいしい料理を作ってく
れてあり

がとう。ぼくも大きくなったら、お父さん
のように仕

事をしながら、家族のために料理を作れる
ようにな

りたいです。そしてお父さんのおやじの味
を伝えてい

きたいです。